

見どころ案内

ハナショウブ & アジサイまつり開催中
6月2日～24日までの土日

モリアオガエルの卵塊

らんかい
日本庭園フジ棚近くのカエデの枝に、夜産み付けられた泡に包まれた卵塊を観察できます。雨上がりの翌朝が狙い頃です！見頃のハナショウブについては別紙のリーフレットをご覧ください。

2018年6月16日

通巻第373号

展示会のご案内

- ◇展示温室 (6/20～7/16)
- 夏のカラフルリーフ展
- ◇屋外展示場 (6/2～24)
- アジサイ展
- ◇展示資料館 (6/17～7/25)
- 私の好きな花たちの写真展

アジサイ (アジサイ科)

日本庭園を中心に約140品種2200株のアジサイを植栽しています。アジサイ展(屋外展示場)も、お見逃しなく。

熱帯スイレン

(スイレン科)
熱帯に分布するスイレンの総称で、多彩な花色を持っています。熱帯スイレン温室の工事が始まると見る事ができなくなりますので、是非今のうちに御覧下さい。

ショクダイオオコンニャク

(サトイモ科)
スマトラ島の熱帯雨林に自生し、二日間しか咲かない、世界最大の花として知られています。現在大きく葉を広げており、絶好の日よけになっています。

カスケード花壇の植物

見事な穂状花を咲かせているのはデルフィニウム。花をツバメが飛ぶ姿に見立てて和名は大飛燕草(オオヒエンソウ)。オレンジや黄色の鮮烈な花はナスチウム。花言葉は勝利。カープコラボTシャツのデザインにも採用されています。背が高い株はハクチョウソウ。舞い踊る蝶のような花姿です。

ハナショウブ

(アヤメ科)
ピークは過ぎましたが、もう少し見る事ができます。江戸系、肥後系、伊勢系、長井系、その他野生種約100種1,000株を植栽しています。現在20品種しか残っていない菖翁花のうち18品種を保有しています。

タチアオイ (アオイ科)

日本には古くから薬用として渡来し、花が綺麗な為様々な園芸品種が作られています。梅雨入りの頃に咲き始め、梅雨明けの頃に咲き終わることから“ツユアオイ”の別名もあります。

スイレン (スイレン科)

熱帯スイレンと異なり、寒さに強いので、日本の屋外でも越冬できます。フランスの著名な画家クロード・モネが良く描いたことで知られます。

オルラヤ (セリ科)

欧州原産の多年草です。日本では夏越しが難しいので秋蒔きの一年草として扱います。群植するとレース状の花がきれいです。

